



<研究主題> 児童生徒が自分で考え、もっと学びたくなる授業づくり  
～学びの過程、内面の育ちに着目した授業研究～

9月8日に行われた小学部の全校授業研究会について、授業研究会で話題になったことや指導助言を紹介し、今後も改善点や指導助言を活かした授業づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

## 【小学部】

<協議テーマ>

### 「分かって行動する姿」がどのように表れていたか

#### ★単元名★

小学部6年 生活単元学習 6年生テレビをつくろう！～好きな給食ランキングを伝えよう～

#### ★授業説明★

- ・児童たちの関心の高いタブレット端末を活用しながら、分かって行動する姿を育てたいと考えて始めた。タブレット端末で字幕を付けると動画は簡単にできてしまうが、全員が笑顔で活躍することやできたときの喜びを感じるように、看板等を作る活動を取り入れた。
- ・協力を主な目標にし、タイトルやグラフづくりに取り組んだ。グループに分かれて取り組んだことにより、友達同士で「これを使うといいよ」などのやりとりが見られた。



#### ★協議から★

<協力について>

- ・子ども同士をつなぐ仕掛けがあればよいのでは。
- ・子ども同士の会話場面や考える場面を設けてはどうか。

<算数科とのつながりについて>

- ・棒グラフの代わりにブロックを積むなどはどうか？視覚的にも分かりやすい。
- ・具体物の比較、数字を書き込む、差がはっきり分かる工夫をする。
- ・日常的に数量や図形に関心を高める機会の積み重ねをするとよいのではないか。



<指導助言> 秋田県総合教育センター 指導主事 牧野 幸枝 氏

○子どもの実態によって「分かる」の意味は違ってくる。考えてほしいことは、「やるべきことが分かればやるのか？」「やるための原動力になっているのは“分かる”ことなのだろうか」ということ。子どもが分かってさらにやる気になるために、楽しさや必要感、責任感など子ども達のやる気を引き出すものが必要だと思う。

○「6年生テレビ」。聞いただけで楽しそうな単元名である。自分たちの頑張りを見ることもでき、見る相手のために、という気持ちで活動することが他者意識にもつながっている。子どもによっていろいろな役割が設定されていた。タブレット操作など、特別感があってよいと思う。気持ちがのっていない子どももいたが、「分かる」だけではやれないということ。どうすれば意欲につながるのか考えてほしい。

○子どもに応じた教材が丁寧に準備されていた。私たちは子どもが取り組めるように教材を準備するが、必要がなくなったら外していくことが鉄則である。子どもの発想や挑戦の妨げになっていないか時々見返してみることも大切である。

○棒グラフについて。教科の視点を入れるというのであれば学習指導要領で発達の段階を確認してほしい。6年生の児童たちだけではなく、見る側の子どもたちのために工夫が必要である。

○子ども一人一人が楽しさややりがいを、実態によっては問題意識をもったり、改善策を考えたりするなど先につながる前向きな気持ちをもてるよう授業づくりを目指してほしい。